

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

日本語教育学プログラム

（博士課程前期）

日本語教育学プログラムでは、以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、修士論文及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、研究テーマ及び専門領域に応じて「修士（教育学）、修士（学術）」のいずれかの学位を授与する。

- (1) 急速に進むグローバル化の下、国内外において、増加の一途をたどる日本語学習者（児童から成人まで）に対応し得る、高度な知識・技能を有している。
- (2) グローバル・マインドを持った日本語教育の研究者・教育者となるために、「言語」「教育」「心理」「文化」「社会」にわたる日本語教育学を構成する幅広い領域において、理論・実践の質的向上に資する高度な教育研究能力（思考力・判断力・表現力）を有している。
- (3) 日本語学習者と日本語母語話者が共修する中で、日本語や日本文化についての理解を深めるという新たな「学び」を構築・支援できる能力（主体性・協働性）を有している。
- (4) 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない広い視野を有している。
- (5) 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と複眼的思考力に裏打ちされた課題発見能力を有している。
- (6) 多分野の専門家で構成されるチームの一員として社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- (7) 修士学位取得者としての使命を自覚し、高い倫理観を有している。

（博士課程後期）

日本語教育学プログラムでは、以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、研究テーマ及び専門領域に応じて「博士（教育学）、博士（学術）」のいずれかの学位を授与する。

- (1) 急速に進むグローバル化の下、国内外において、増加の一途をたどる日本語学習者（児童から成人まで）に対応し得る、卓越した知識・技能を有している。
- (2) グローバル・マインドを持った日本語教育の研究者・教育者となるために、「言語」「教育」「心理」「文化」「社会」にわたる日本語教育学を構成する幅広い領域において、理論・実践の質的向上に資する卓越した教育研究能力（思考力・判断力・表現力）を有している。
- (3) 日本語学習者と日本語母語話者が共修する中で、日本語や日本文化についての理解を深めるという新たな「学び」を構築・支援できる能力（主体性・協働性）を有している。
- (4) 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野を有している。
- (5) 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と柔軟な複眼的思考力に裏打ちされた卓越した課題発見能力を有している。
- (6) 多分野の専門家で構成されるチームのリーダーとして社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- (7) 博士学位取得者としての使命を自覚し、極めて高い倫理観を有している。